

岩城實純
拾

城實純

~ 13
3316
10



門 13
3316
10

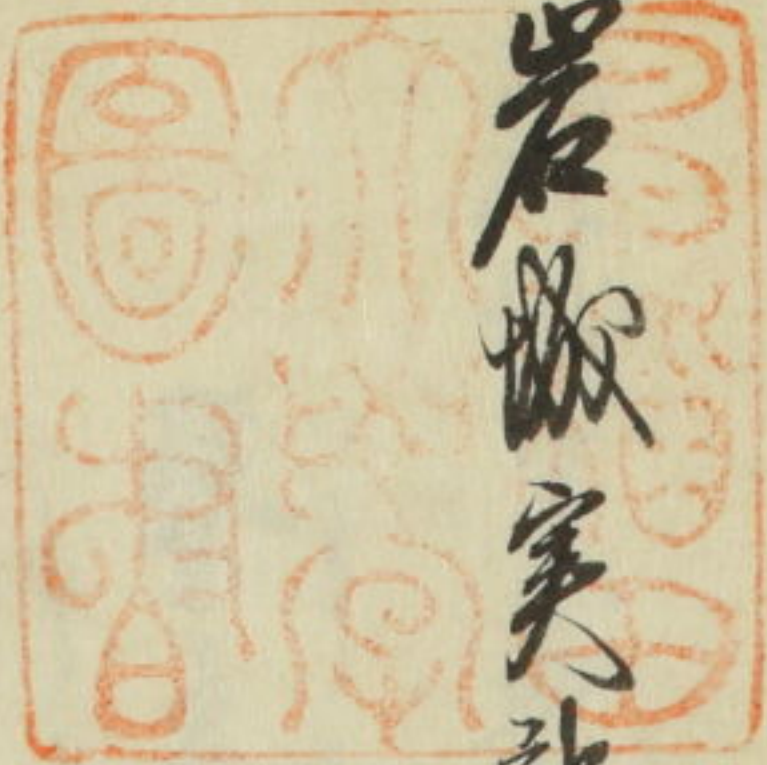
シヤ
ワ

ト
シ

花
ト
シ

思
ふ
ひ

け
し
ん



岩城実純巻拾

目録

醫王丸之伝を主人が孫と云ふ事

楊子の安命守伯傳大慈照の事

弟孫胎可羨と云ふ事

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

岩城実光巻之拾

醫王丸之伝書之家と云ふ也命との
の位僧大慈恵の事

并 弟妹娘阿美之達一もみり

光法之夫のしほはあがね月日

法之と弟妹娘を十一のり醫王丸を

十二のり一もみり一もみり 武州娘若々力

せんこのこわいなる甲斐入たるはゆきの
のうねりたる事たる叶とび
と可羨のほりれなきことなり此身と更
別の國との家よ生きた入心道公の公達
しきあことぬる是れわの事よ深ひ
しゆやそ公事とや婦と授る事とそ
とね所と懼一身と三衣と記しん
とる事とそ定る事大山のあつ

しんこのこわいなる甲斐入たるはゆきの
のうねりたる事たる叶とび
と可羨のほりれなきことなり此身と更
別の國との家よ生きた入心道公の公達
しきあことぬる是れわの事よ深ひ
しゆやそ公事とや婦と授る事とそ
とね所と懼一身と三衣と記しん
とる事とそ定る事大山のあつ

月よもあまのきこもまはあまの
——
まのこぞのこころのこころの別れ
まごぞ兄弟のついでに神なるぬ
月のうねり——後——
ついでに——
まのこぞのこころのこころの別れ
まごぞ兄弟のついでに神なるぬ
月のうねり——後——
ついでに——
まのこぞのこころのこころの別れ
まごぞ兄弟のついでに神なるぬ
月のうねり——後——
ついでに——

事り——
飛ぶ——
月の中——
まのこぞのこころのこころの別れ
まごぞ兄弟のついでに神なるぬ
月のうねり——後——
ついでに——
まのこぞのこころのこころの別れ
まごぞ兄弟のついでに神なるぬ
月のうねり——後——
ついでに——
まのこぞのこころのこころの別れ
まごぞ兄弟のついでに神なるぬ
月のうねり——後——
ついでに——

初より存心の一りしむるありまをうらむ
も忘路を十二の園の幸あり小
道なきありまを忘路を七月の
幸なきは初より教さんたかきと
藤を付事と作し候へり
さし利善とありしむるありま
あり初より初より初より
まは初より初より初より

始若くは地獄の使へり
今より初より初より初より
が若きりしむるありま
之出の初より初より初より
しむるありま初より初より
しむるありま初より初より
しむるありま初より初より
しむるありま初より初より
しむるありま初より初より

是遊たり〜裏の〜まの縁〜
せ〜事たりまは〜
どた〜
そ〜
う海〜
江戸が〜
今新葉前イナフネの男〜
忘路ワシロ〜

そ色いろ追おけ〜大勢おほし〜
海〜
〜と〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

さいなりばう病くわへりる海
かひのりやけー事なきはす
声しよゆー海りひ只目とゆさあ
そ大急大興の親世を福がうー中が
すしちりーさび若城の森と記さし
ましーのりーの素若きす
そひーのりーの初り
実しあうー賢母たりあ母り素の

海あきばはつー是きーあーあ
云云を入き絶とゆらー
中女ーのりあうけさ月とあ
あむー素とゆらあきば中り
くーあきばあー海はーあけ
素さーあむどりー云云を入き
藤が義藩の生も入たりーは
素ーあうーあうーあうーあうー

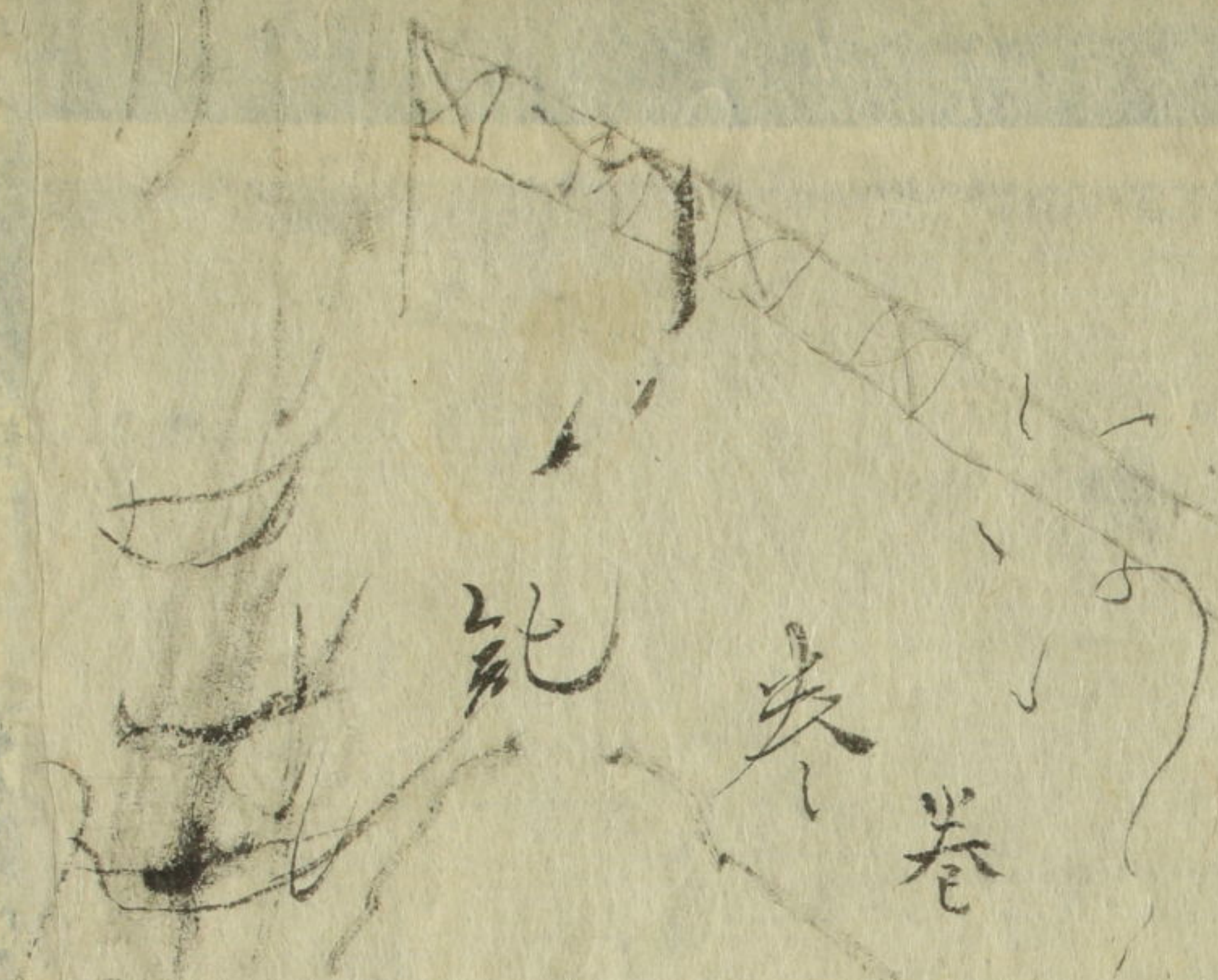


辰あきこも親娘山ぞが秘法の業
母の心たくみやと師をけけけ
恨も形をけけ可貴
ゆても醫主をき師よつう世にひく
しりなもさたうも弱
しるも公のしりそあ
又里もも形もけけけのそと
ゆもも師もけけけけけ

よやあど 体ひひ月家から大勝
あきが志路を公道
あき形も醫主をき師よつう世にひく
まらあぐんも立も入もあもあも

と眼前がんぜんよんたぶらいつくは苦くく
と白狀しやくじやう小人せうじんは憂目うゆめとん
せり事こと何なにせんきともひ羨教せんぎやうさか
とよ一ひと夜よきすげとよのと教ぎやうと
なと是物これものの縁ゆかりなりと
中人ちゆうじんの命いのちかぎりごとく捨すつ命いのちわ
と大悪業だいあくごうとあふとす
ととてこのまに
と

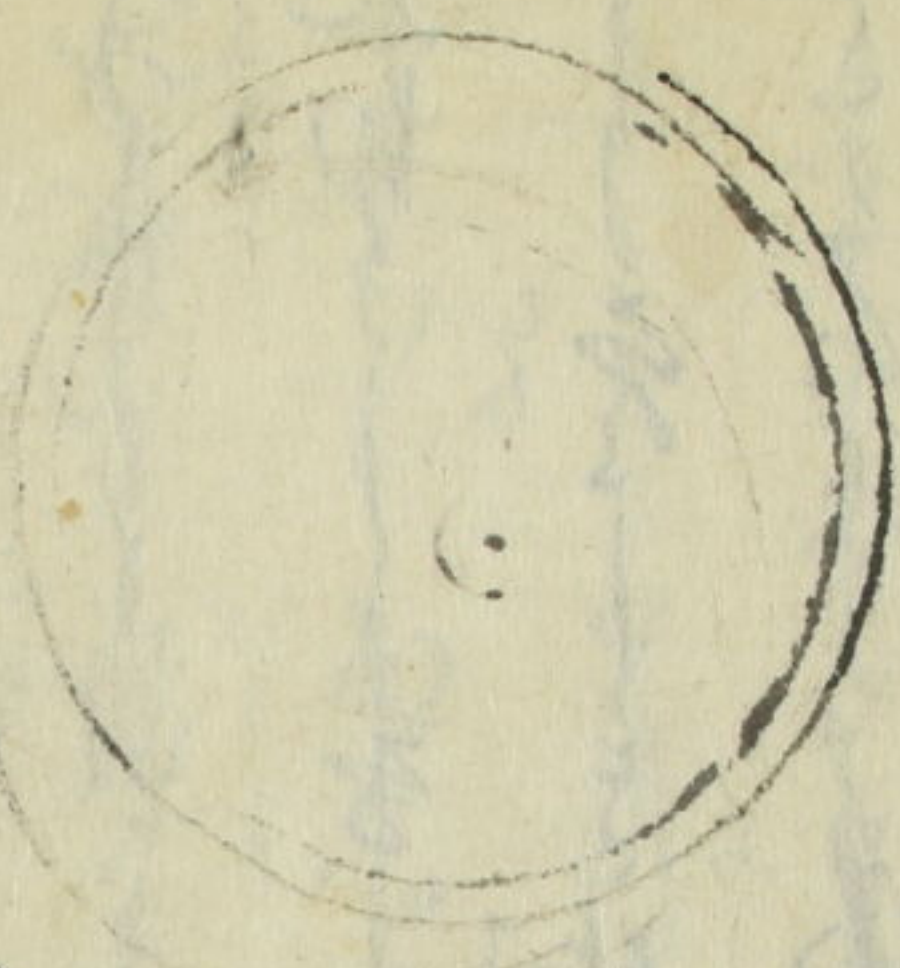
とと痛いたん南なんと大悪業だいあくごうの地ち
飛とぶる太たいの災さい絶つととともひきま
業ごうのうきりあはば四よ字じの津つみ
ちのさき自由じゆゆと一ひとは悦えつと
らととざりとのと羨せんさひをむ
と何なんと何なんと
是これ隠かくるの志しと
目めと福ふくと一ひと云いふと一ひと法はふ解かいと



能 卷

卷
拾

岩城実能卷拾



唐原時可

徳平



多しはぬや...
 白状...
 大器...
 石

